

2020（令和2）年度 東京大学 入試問題 第1問 解答例

- 一 自由競争下で集団間の不平等を是正すれば、不平等は各人の才能と努力次第と正当化され、変革運動への関心が生じないから。
- 二 近代の人間像である自由意思に導かれる主体に自己責任を問う根拠となる内因は、すべて外因に由来する虚構であるから。
- 三 能力主義は、平等な社会を実現するための方策と偽って被支配者の合意を得、既存の階層構造を正当化、永続化するということ。
- 四 近代以前は共同体を超えた存在を根拠として不平等が当然視され、秩序は安定していた。近代社会でも平等は実現不可能な建前であり、支配関係安定のために格差を自己責任とし、弁明する理屈として自由な個人という虚構の人間像が生まれたにすぎないということ。（一二〇字）
- 五 a 培 b 誕生 c 欠陥